

シン まちの進化論

「武雄市文化のまちづくり構想」



令和4年3月
武雄市

はじめに

本市は、佐賀県の西部にある温泉都市で、武雄温泉に代表される観光資源、御船山、黒髪山、大楠などの豊かな自然資源、蘭学ややきものといった歴史文化・産業資源など多様な地域資源に恵まれており、市民共通の財産となっています。

文化振興について、文化団体や文化サークルを中心とした文化芸術活動が盛んに行われ、武雄市文化会館、北方文化ホールなどを中心に優れた文化公演が開催されています。また、各地域においては、浮立や荒踊などの伝統芸能が継承されており、武雄市独自の文化として育まれてきました。

本構想では、武雄市文化のまちづくりデザイン会議でのご意見や、市民の皆さまを対象に行った、武雄市文化のまちづくりアンケートの調査結果などを踏まえ、武雄に受け継がれてきた素晴らしい文化をもう一度原点から考え、これからも引き継いでいくために取り組む、新たなまちづくりについて示したものです。

新たなまちづくりでは、これまでの文化を大事にしながらも、新しい要素を取り込み、様々な分野との連携を通じて、新しい文化を生み出し、基本理念の「もっと開かれた もっと関われる もっとつながれる 文化が生きるまち」にあるように、市民の皆さんがもっと気軽に文化に関わり、交流し、文化によって活気とにぎわいが生まれるまちを目指します。

そのために、「成長する文化づくり」、「文化に関わる人づくり」、「文化によるまちのにぎわいづくり」と3つの柱を定め、今後10年間をかけて様々な施策を展開してまいります。

本構想の推進につきましては、文化活動団体はもとより、市民の皆様と連携・協力をしながら、武雄らしい文化が生きるまちを目指していきたいと考えております。

最後になりますが、本構想の策定にあたり、武雄市文化のまちづくりデザイン会議委員の皆様をはじめ、市民や各団体の方からご意見をいただきましたことに心からお礼申し上げます。

令和4年3月

武雄市長 小松 政



目次

第1章	文化のまちづくり構想にあたって	……………	P1
	1 構想策定の趣旨		
	2 構想の位置づけ		
	3 構想の期間		
	4 構想で位置づける「文化」の範囲		
第2章	文化を取り巻く現況と課題について	……………	P4
	1 文化を取り巻くまちの現状について		
	2 市民の文化活動状況と文化に対する意識調査		
	3 文化を取り巻くまちの課題について		
第3章	目指すべき文化のまちの姿	……………	P15
	1 文化が生きるまちを目指して		
	2 新たなまちづくりの基本理念		
	3 基本理念をまちづくりに活かすために		
	4 新たなまちづくりの目標		
	5 目標、施策について（体系表）		
第4章	文化のまちづくりのための施策について	……………	P22
	1 柱1 成長する文化づくり		
	2 柱2 文化に関わる人づくり		
	3 柱3 文化によるまちのにぎわいづくり		
第5章	施策を実現するための拠点施設について	……………	P34
	1 新たなまちづくりの拠点となる施設とは		
	2 新たな文化の拠点から新たなまちづくりへ		
第6章	取り組みの推進	……………	P35
	1 取り組みの推進・協働体制		
	2 実施計画と評価、検証		

表紙説明「文化の木」

武雄市文化のまちづくり構想とは、文化をきっかけに新たなまちづくりに取り組むための目標です。そのイメージとして、「多様性」「自由さ」「変化」を受け入れ、市民自らの手で大きく育てていく「文化の木」を想定しました。文化の木は、これまでの武雄の文化に新たな要素を加えることで、見たこともない変化を生み出し、大きく育てていくその過程で、人々が関わり合い、まちのにぎわいが生まれる未来を生み出すことを理想とします。表紙の絵はそのイメージを具体的に描いたもので、この構想のシンボルとなります。（作者：立石桃太郎氏）

第1章 文化のまちづくり構想にあたって

1 構想策定の趣旨

文化は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするとともに、豊かな人間性、創造力をはぐくむものです。また、社会においても、共感する心を通じて、人と人を結びつけ、相互に理解し、尊重し合う土壌を提供するものであり、協働し、共生する社会の基盤となるものです。さらには、経済活動に多大な影響を与えるとともに、文化そのものが新しい需要や高い付加価値を生み出し、多くの産業の発展に寄与するものです。

武雄市には、御船山、黒髪山、3本の大楠をはじめとする豊かな自然、1300年以上の歴史をもつ武雄温泉、やきもの、蘭学・洋学、各町に受け継がれる伝統芸能など長い歴史の中で培われてきた特色ある歴史や文化が根付いています。また、文化施設での音楽や絵画などの鑑賞や、公民館を中心としたサークル活動が盛んに行われてきました。

昨今、社会の様々な分野で変化が進み、先行き不透明な時代と言われ、これまでに経験したことのない課題に挑戦していかなければなりません。また、人々の価値観は「ものの豊かさ」から「心の豊かさ」へ大きな転換が見られており、文化は我々の生活に欠かせないものとなっています。

このような時代だからこそ、武雄の文化をもう一度見直すことが必要と考え、「武雄市文化のまちづくり構想(以下、構想)」を策定することといたしました。

この構想では、今ある自然、地域資源を土台として、様々な要素を取り込み、成長させていくことで新しい文化を生み出すことを目的としています。また、経済、教育、福祉などさまざまな分野との連携、観光施設やスポーツ施設との回遊性の向上、各町文化との連携・融合、「西九州のハブ都市」としての利便性を活かした交流人口の増加など「文化を活かしたまちづくりとにぎわいの創出」を目指します。

「もっと開かれた、もっと関われる、もっとつながれる 文化が生きるまち」を基本理念として新しい武雄のまちづくりを進めていくための重要な政策として位置づけるものです。

2 構想の位置づけ

この構想は、「第2期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる政策の柱「武雄の未来を拓く『西九州のハブ都市』の実現」に基づき、本市の文化の振興に関する基本的な方向性のみならず、文化を活かしたまちづくり、まちのにぎわいづくりの方向性を示すものです。

文化を活かしたまちづくりにむけた取り組みについては、この構想を踏まえつつ、観光、教育、食・農、健康、福祉、都市計画その他関連する様々な分野の個別計画との整合性を図り、推進していきます。

3 構想の期間

本構想の期間については、2022(令和4年)年度から2031(令和13年)年度までの10年間とし、前期を2022(令和4年)年度から2026(令和8年)年度の5年間、後期を2027(令和9年)年度から2031(令和13年)年度までの5年間とします。

なお、個別の施策内容については、社会情勢や構想の進行状況等を踏まえ、5年に1回、必要に応じて中間見直しを行います。

4 構想で位置づける「文化」の範囲

本構想において「文化」とは、文化芸術基本法第8条から第14条に記載された文化の領域(芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、生活文化、国民娯楽及び出版物等、文化財等、地域における文化芸術)を主な範囲と考えます。

加えて、これまでの文化を土台とし、様々な要素を取り込んで生み出される事象、また心豊かな生活をおくるために必要な生きがい、個々が喜びを感じられる様々な事象を含め幅広く文化と捉えます。

(参考)「文化芸術基本法」における文化芸術の範囲(第8条～14条)

芸 術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他電子機器等を利用した芸術
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
芸 能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能
生活文化・国民娯楽 ・出版物等	生活文化(茶道、華道、書道、食文化その他の生活にかかる文化) 国民娯楽(囲碁、将棋その他の国民的娯楽)並びに出版物及び レコード等
文化財等	有形及び無形の文化財並びにその保存技術
地域における文化芸術	地域固有の伝統芸能及び民俗芸能

第2章 文化を取り巻く現状と課題について

1 文化を取り巻くまちの現状について

① 武雄市の特性

本市は、佐賀県の西部にある温泉が有名なまちで、平成18年3月1日に旧武雄市・山内町・北方町の1市2町が合併して誕生しました。市域の大部分が山地で、佐賀県内を横断する松浦川と六角川の源流を持ち、武雄盆地内を武雄川・高橋川などの小流が六角川に注いでいます。市内には御船山、黒髪山などの雄大な山々、樹齢3000年を超える3本の大楠などがあり、豊かな自然に囲まれているのが特徴です。

② 武雄市の歴史と文化

本市の歴史を見ていくと、武雄に人が住み始めたのは、発見された旧石器から約2万年前と推定されています。

弥生から古墳時代の遺跡も数多く残っており、特に六角川流域では、みやこ遺跡や椀島山遺跡、県史跡の玉島古墳や潮見古墳など佐賀県を代表する遺跡が発見されています。

7世紀後半頃には、敵の侵入を防ぐための古代山城「おつぼ山神籠石」(国史跡)が造られたことから、武雄が古代西日本における防衛戦略の拠点として見られていたことがわかります。

8世紀前半に編さんされた「肥前国風土記」の中には、武雄にはすでに温泉が湧き出していたことや杵島郡の名前の由来などの記述があります。

豊臣秀吉の時代になると、全国の大名たちは、朝鮮出兵前や帰国時に、入浴のため武雄温泉を訪れました。また、武雄領主も従軍し、帰国時には、朝鮮半島から陶工たちを連れ帰ったのが武雄のやきものの起源の一つとされます。

江戸時代になると、武雄領主は鍋島を名乗るようになり、特に幕末の領主茂義、茂昌の時代には長崎警備にあたった佐賀藩を支える家老の家柄として海外の情報や文物を積極的に導入、西洋科学技術を研究し、佐賀藩の近代化を進めました。約16,000点が残る武雄鍋島家資料のうち、平成26年8月21日、蘭学・洋学に関連する資料が「武雄鍋島家洋学関係資料」(2,224点)として国の重要文化財の一括指定を受け、武雄を代表する文化財となっています。

この他にも、国指定の重要無形文化財である荒踊のほか、各地区で奉納される浮立などの伝統芸能が地域に根付き、長く受け継がれています。

また、長崎から小倉をつないでいた長崎街道が市内を通っており、現在においても、市内随所に当時の面影を残しています。特に、塚崎宿は温泉のある宿場として栄え、シーボルトをはじめ、多くの歴史上の人物が立ち寄っています。

明治時代に入ると鉄道が開通し、武雄駅(現武雄温泉駅)は杵島炭鉱と佐世保の軍事基地へとつながる交通の要所として、佐賀と長崎をつなぐ重要な役割を持ちました。

現在は、武雄温泉新館及び楼門を始めとする歴史的建造物、やきものなどが注目されています。

③ 武雄市の地域資源の活用

先人たちより受け継がれてきた歴史・伝統・自然などの、固有の地域資源を受け継ぎ発展させていくためにも、文化がもつ力を様々な分野に活用し、武雄らしさを活かした新たなまちづくり、にぎわいづくりが期待されます。

そのためにも、武雄市文化会館、北方文化ホール、武雄市図書館・歴史資料館などの文化施設や、各町公民館などを始めとする公共施設を、市民が文化に触れる拠点として活用していくことが必要です。

2 市民の文化活動状況と文化に対する意識調査

文化を活かした新たなまちづくりに取り組む上での課題抽出のため、市民及び文化活動を行っている団体(サークル・文化活動団体と伝統芸能団体)を対象にアンケート調査を実施し、文化についての意識、関心を聞き取りました。

(1) 武雄市文化のまちづくりアンケート調査結果

- ・調査内容 文化への関心について、武雄市の公共施設について、武雄の文化・地域資源について、文化とまちづくりについて
- ・調査対象者 市内に住んでいる又は市内の公共施設を利用している18歳以上の方
武雄市内中学2年生及び武雄高校2年生の生徒
- ・調査方法 ウェブアンケート、紙媒体アンケート
- ・調査期間 令和3年10月1日(金)～20日(水)
- ・回答状況 ①18歳以上の方 943人 ②中高生 702人 計1645人

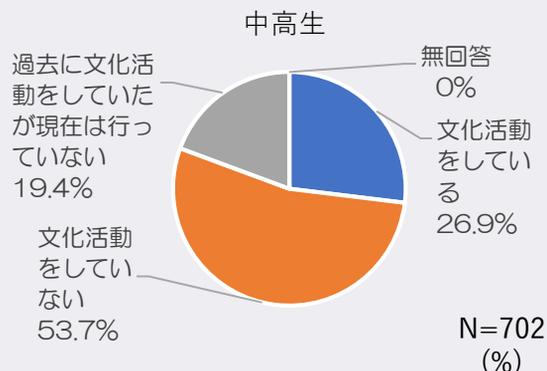
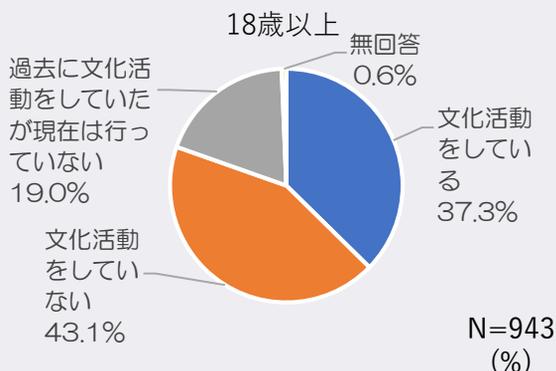
①文化への関心について

文化活動に関する状況について、「文化活動をしていない」と回答した人、または「過去に文化活動をしていたが現在は行っていない」と回答した人が18歳以上で62.1%、中高生で73.1%という結果で、特に若い世代での文化活動への関心の低さが明らかになりました(グラフ1参照)。

その主な理由として18歳以上が「活動する時間がない」、中高生が「興味がない」が最も多くなっており、他にも「参加する方法がわからない」、「参加したい活動がない」などの回答も多くありました(グラフ2参照)。

この結果から、誰もが文化活動に参加し、親しむことができるような環境づくりや参加したくなるようなきっかけづくりが課題といえます。(P22-事業案①、23-事業案②、24-事業案③、29-事業案⑧)

(グラフ1) 文化活動の状況 (いずれか1つ)



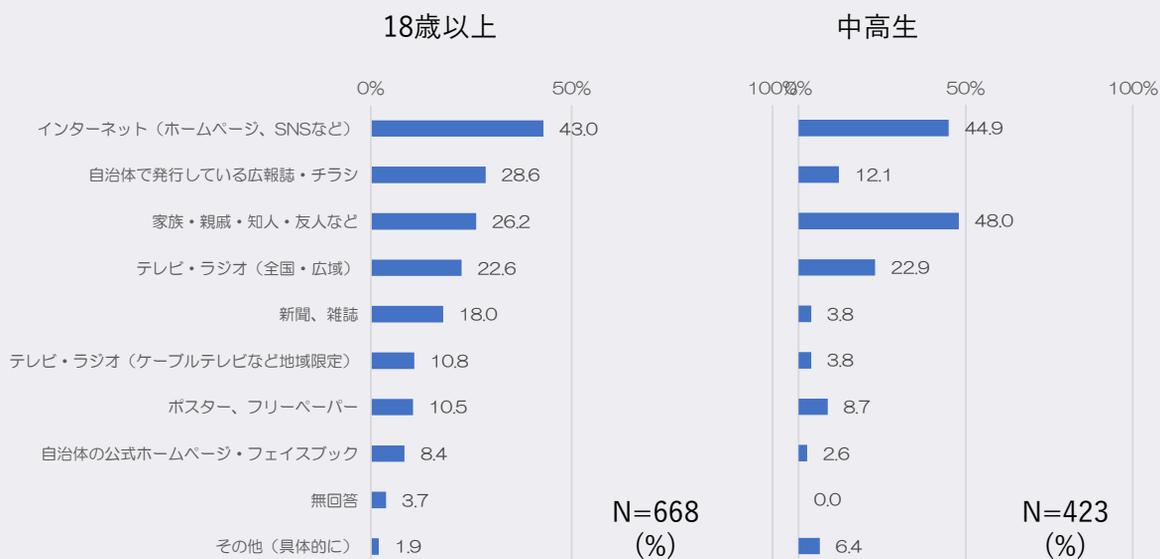
(グラフ2) 文化活動をしていない理由 (2つまで)



また、文化芸術の鑑賞について参考とする情報源は、18歳以上が「インターネット」、中高生が「家族・親戚・知人・友人など」という回答が最も多くなっています(グラフ3参照)。この結果から、デジタルとアナログ双方を取り入れた多面的で効果的な情報の発信が必要と考えられます。

(P25-事業案④)

(グラフ3) 文化芸術鑑賞時の参考情報源 (2つまで)



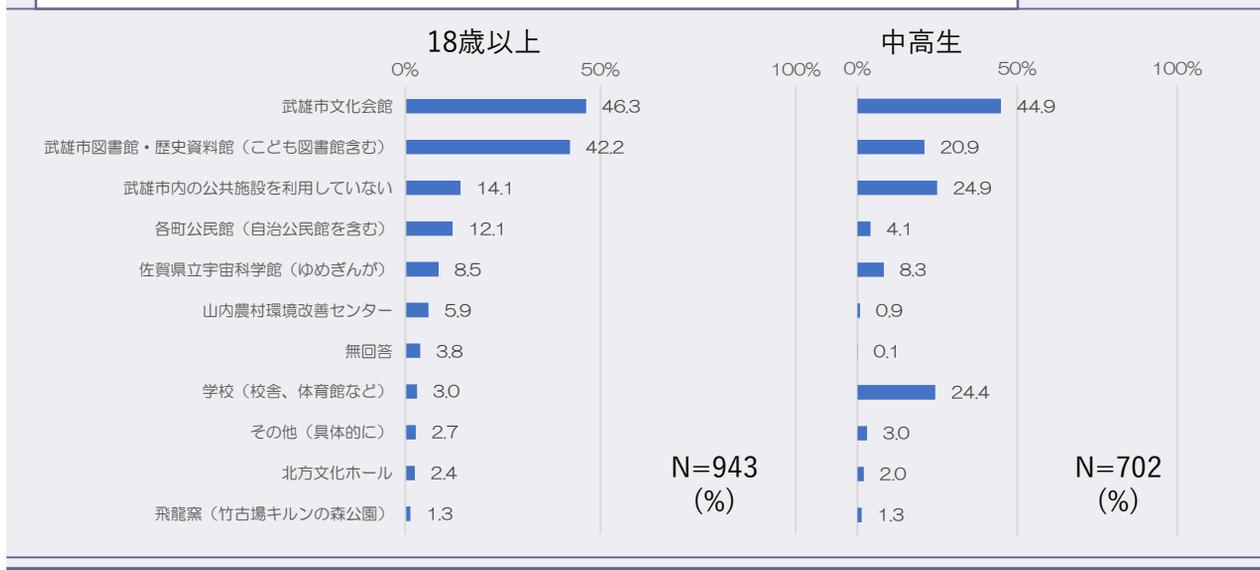
②武雄市の公共施設について

市内の公共施設において、文化活動・文化芸術の鑑賞でよく利用する施設は、18歳以上、中高生とも「武雄市文化会館」が4割以上と最も多く、「武雄市図書館・歴史資料館」についても使用の頻度が高いことがわかります(グラフ4参照)。

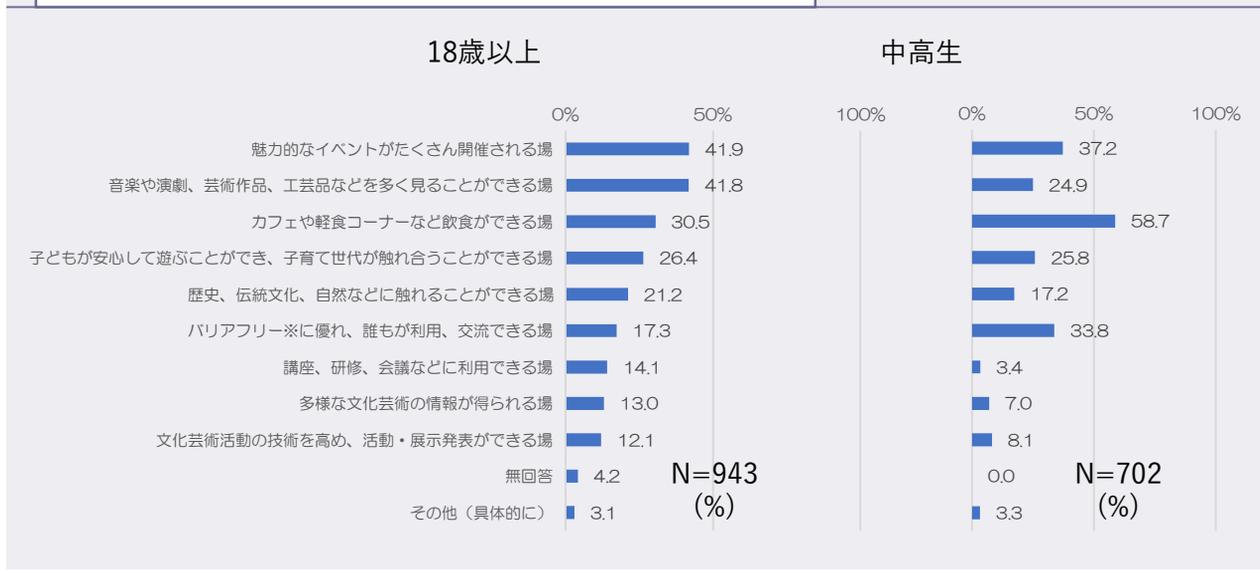
また、文化施設にあればよいと思う機能について、「魅力的なイベントが開催される」「飲食ができる」「芸術鑑賞ができる」との回答が多くありました(グラフ5参照)。

この結果から、**武雄市文化会館の環境整備や武雄市図書館・歴史資料館との連携**が今後重要であると考えられます。(P23-事業案②、P34-拠点施設)

(グラフ4) 文化活動・芸術鑑賞でよく利用する市内の公共施設 (2つまで)



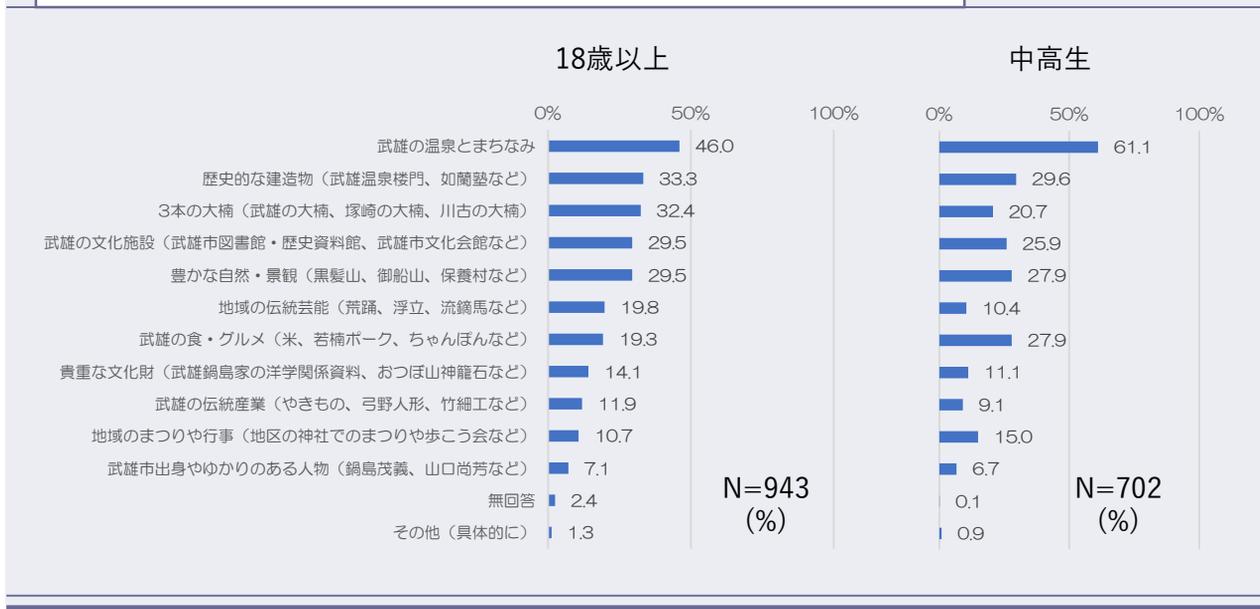
(グラフ5) 文化施設にあれば良いと思う機能 (3つまで)



③武雄の文化・地域資源について

誇りに思う、今後残したい武雄の文化・地域資源について、「武雄の温泉とまちなみ」「歴史的な建造物」「自然環境」「文化施設」との回答が多く、これらをはじめとする地域資源の保存と活用が求められます(グラフ6参照)。(P30-事業案⑨)

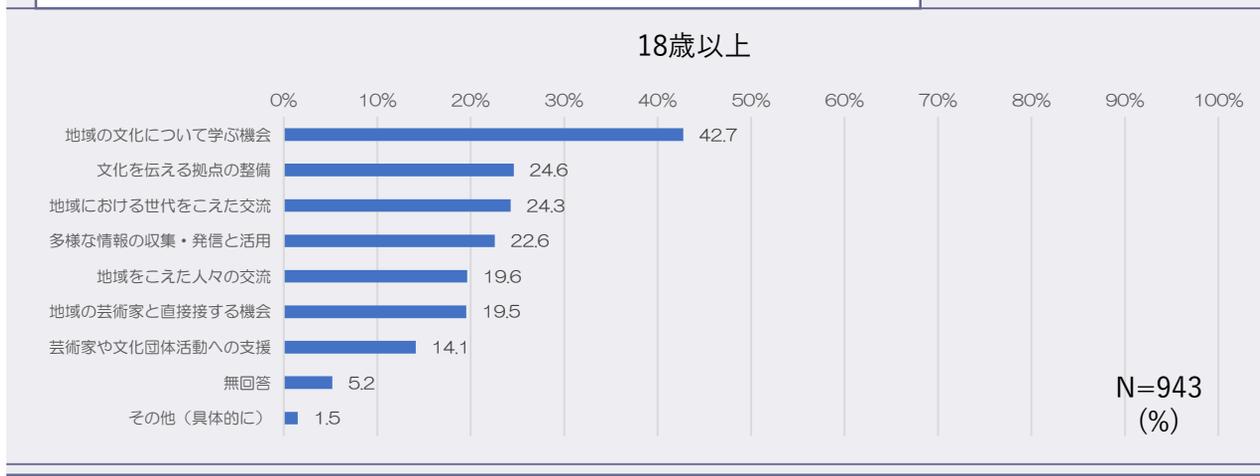
(グラフ6) 誇りに思う、今後残したい武雄の文化・地域資源 (3つまで)



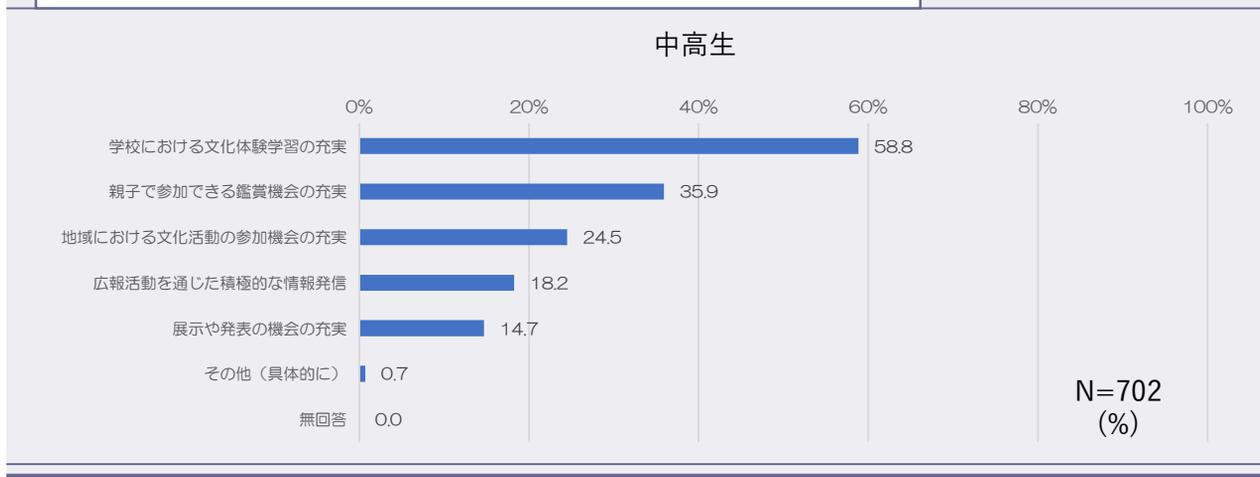
④文化とまちづくりについて

武雄の文化を次世代に伝えていくために必要だと思うこととして、「地域の文化について学ぶ機会」「伝える拠点の整備」との回答が多く(グラフ7参照)、文化の継承には子どもたちが身近に文化に触れる機会や場を充実させることが重要といえます。子どもたちが文化に親しむためにも、「学校における文化体験学習の充実」、「親子で参加出来る鑑賞機会の充実」が重要とわかり(グラフ8参照)、学校や地域での文化体験の機会づくりが重要であると示唆されます。(P27-事業案⑥)

(グラフ7) 次世代に伝えていくために必要だと思うこと (2つまで)



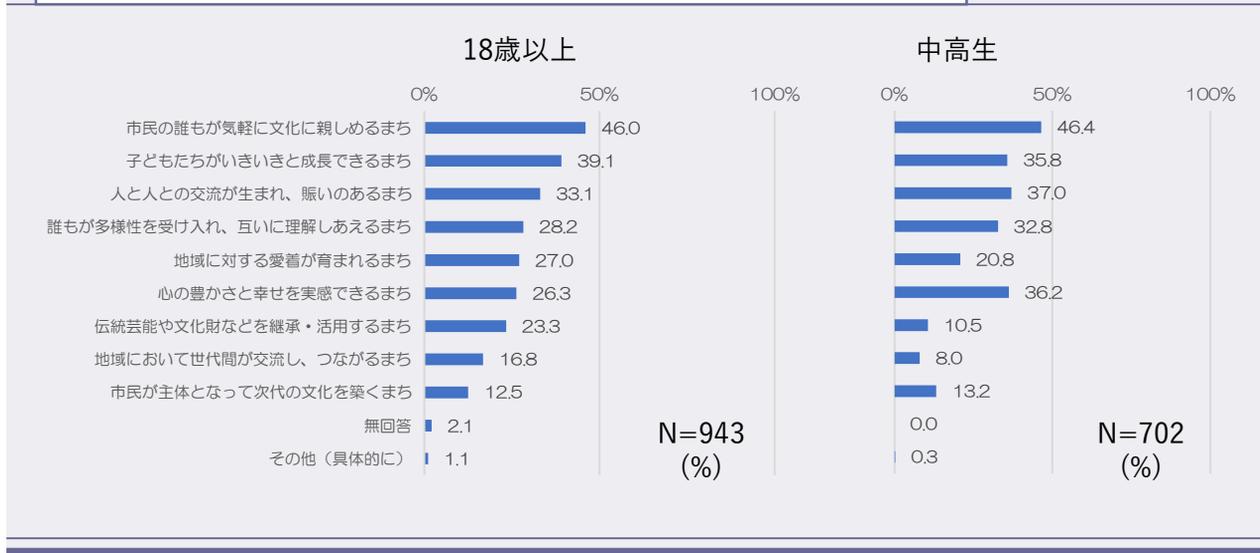
(グラフ8) 文化により親しむために必要だと思うこと (2つまで)



また、まちづくりに関して、「気軽に文化に親しめる」「人と人との交流が生まれる」「にぎわいがある」まちづくりが期待されることがわかりました(グラフ9参照)。

一方で、「市民が主体となって次代の文化を築くまち」への期待が全世代において少ないことがわかり、これは文化の担い手である市民の文化への関心が低いこと、また主体的に文化に関わっている市民が少ない事を示しています。これらの結果から、市民の文化への関心を高めるきっかけや主体的に文化に関われる環境を整備し、絶えず人々の交流が生まれ活気のあるまちへつなげることが重要と考えられます。(P26-事業案⑤、P31-事業案⑩、P33-事業案⑫)

(グラフ9) 文化を通じてどのようなまちになったら良いか (3つまで)



(2) 文化・サークル活動団体アンケート調査結果

- ・ **調査内容** 団体規模や活動状況について、イベント・発表会等について今後の活動についてなど
- ・ **調査対象者** 市内で活動する文化関係団体のうち市が抽出した87団体
- ・ **調査方法** 紙媒体アンケート、郵送による依頼・回収
- ・ **調査期間** 令和3年9月中旬～10月中旬
- ・ **回答状況** 62団体より回答

● アンケート結果から読み取れる現状と課題

文化活動の魅力として、「仲間と活動し創造すること」「地域に貢献している達成感」「健康増進」「余暇の活用と充実感」「伝統文化の鑑賞」「仲間づくりや交流」などの意見が多くあげられました。この結果から、文化活動を行うことは健康寿命の延伸や社会貢献、人生の生きがいづくりにつながると考えられます。

また、活動の披露の場として発表会やイベントを行ってはいるものの、その機会が少ないと感じている団体が多く、規模が小さくても活動の披露の場がたくさんあることが求められていることがわかりました。

どの団体においても、「高齢化」「メンバーの減少」「後継者の育成」「活動の時間が取れないこと」などが共通した課題と考えられます。(P28-事業案⑦、P32-事業案⑩)

(3) 伝統芸能団体アンケート調査結果

- ・ 調査内容 団体規模や活動状況や披露について、今後の活動についてなど
- ・ 調査対象者 武雄市伝統芸能保存連絡協議会加盟19団体
- ・ 調査方法 紙媒体アンケート、協議会時に直接依頼、郵送による回収
- ・ 調査期間 令和3年8月6日（金）～16日（月）
- ・ 回答状況 16団体

● アンケート結果から読み取れる現状と課題

伝統芸能の魅力として、「歴史の長さや地域の団結」「地区の活性化」「世代を超えた交流」「青少年の健全育成」「地域の連帯感の醸成」などの意見が多くあげられ、伝統芸能は、次世代に継承していく地域の共通の財産であると同時に地域の人と人をつなぐ重要な機会であると考えられます。

伝統芸能の披露の日時が重なることから、団体間の交流が少ないため、**団体同士の意見交換や交流の場**があれば活動の活性化につながる可能性が考えられます。(P32-事業案①)

また、どの団体も活動を記録に残して披露したいと回答があり、何らかの形で伝統芸能について常時知ることができる環境を整備することが求められます。

伝統芸能を取り巻く環境の課題として、「若手の人材不足」「高齢化」があげられ、特に若い人たちが活動の魅力を知る機会の確保や、それぞれの団体の交流による活動の活性化が今後の伝統文化継承に重要となると考えられます。

(4) それぞれのアンケート結果を構想へ活かすために

市民が、文化にもっと関心を持ち、身近に感じ、より関わってもらえるよう、また、地域の文化を守るだけでなく、活用し、次世代に伝えていくためにも、以下の観点を構想に取り入れていきます。

○文化活動・文化芸術に触れられる場や仕組みづくり（柱1目標①へ）

○時間や場所にとらわれずに文化活動ができる環境づくり（柱1目標②へ）

○文化を学び、主体的に関わる人づくり（柱2目標③へ）

○文化を伝え、支える人づくり（柱2目標④へ）

○地域資源の活用と文化を活かしたまちづくり（柱3目標⑤へ）

○文化に関わる人を増やし、交流が生まれる仕組みづくり（柱3目標⑥へ）

3 文化を取り巻くまちの課題について

本市の文化のまちづくりを考えるうえで踏まえておくべきまちの課題として、少子高齢化及び人口減少、生きがいと健康を実感できるまちづくり、夢や希望のもてる子育て・教育環境の整備や新たな人の流れと交流の創出などがあげられます。今後、持続可能な地域社会構築のため、課題解決及び地域活性化に対して文化の側面からも取り組んでいくことが重要といえます。

また、これまでのアンケート結果などを踏まえて、本市の文化を取り巻くまちの課題について、以下の3点があげられます。

(1) 市民誰もが気軽に文化に触れ、楽しめる環境づくり

●文化をもっと身近に感じるような開かれた場づくり

市民誰もが文化に触れ、楽しむには、文化を身近に感じ、親しむことができる環境が必要となります。日頃より文化に親しんでいる人はもちろん、関心が薄い人に興味をもってもらえるよう、まちじゅうで文化に触れられる機会や、気軽に文化活動に参加できる場など、より文化に親しめるきっかけづくりが求められます。

●文化（活動）に関するハードルを下げる取組み

より多くの市民が気軽に文化活動へ参加しやすいよう、文化・公共施設のバリアフリー化や多言語化表記、時間や場所にとらわれず文化活動が行える環境の整備など、文化への障壁をなくすことが求められます。

また、文化講座や催しに関する情報、文化活動、サークル等に関する情報などについて、積極的な発信を行っていくことも必要といえます。

(2) 市民が参画しやすい環境づくりと担い手の育成

●文化にもっと関われる環境づくり

市民主体で行われている文化活動について、会員の高齢化や減少などが問題となっており、後継者育成や人材確保など団体の活性化のための支援や若者世代がより関われる、参画できる取り組みを行っていく必要があります。

また、文化活動を幅広く支えるボランティアは欠かせない存在であり、文化のすそ野を広げるための人材の育成も求められます。

●地域や学校における文化学習と担い手の育成

地域の文化や歴史を次世代に伝えていくうえで、親世代の文化への意識を高めることや地域や学校でのこどもたちへの関わりは大変重要といえます。こどもたちが伝統文化や様々な文化芸術に触れる機会を創出することで、地域への愛着や誇りを持つ豊かな心を育むことができ、地域文化の担い手の育成につながります。

(3) 地域資源を活かしたまちづくりと交流の促進

●豊かな地域資源を活かしたまちづくりと他分野との連携

これまで武雄において生まれ、受け継がれてきた市民共通の財産である地域固有の文化や地域資源を保存、継承のみならず積極的に活用することが重要です。

また、文化が持つ力を経済や教育、福祉、まちづくりなど幅広く異なる分野と連携させることで新たなにぎわいをつくり、地域活性化を図っていくことが求められます。

●文化をきっかけとした交流の促進と魅力づくり

文化をとおして、これまで交流がなかった個人や団体、地域や世代間をつなげる取り組みを行うことで、地域の活性化や新しい文化の創造につなげることができます。また、西九州新幹線の開業をきっかけとし、西九州地域における文化交流の取り組みが、武雄市の魅力をさらに高めるうえで重要といえます。

加えて、現在、新たな文化が生まれ、人が集い、にぎわう、現代のニーズにあった「文化の拠点」についての課題があります。当市には、これまで市民に親しまれてきた武雄市文化会館がありますが、昭和50年の開館以来46年が経過し、施設の老朽化が進んでいるだけでなく、使用する人が限られ、誰もが気軽に利用できる施設とは言い難いのが現状です。そのため、市民が文化を身近に感じる事ができず、文化活動への関心が低い現状につながっていると考えられます。

気軽に文化に触れられ、人が集い、にぎわう施設としての機能を備えた拠点となる施設が整備されることは、市民の文化への関心を高めるきっかけとなり、文化による新たなまちづくりを実現する上で重要であると考えられます。

第3章 目指すべき文化のまちの姿

1 文化が生きるまちを目指して～市民の手で育てる「文化の木」～

本市では、この構想をきっかけに「文化」をキーワードとした新たなまちづくりに取り組みます。その新たなまちづくりのシンボルとして、「多様性」「自由さ」「変化」を受け入れ成長し続ける大きな「文化の木」を想定し、その木を市民自らの手で育てていきます。

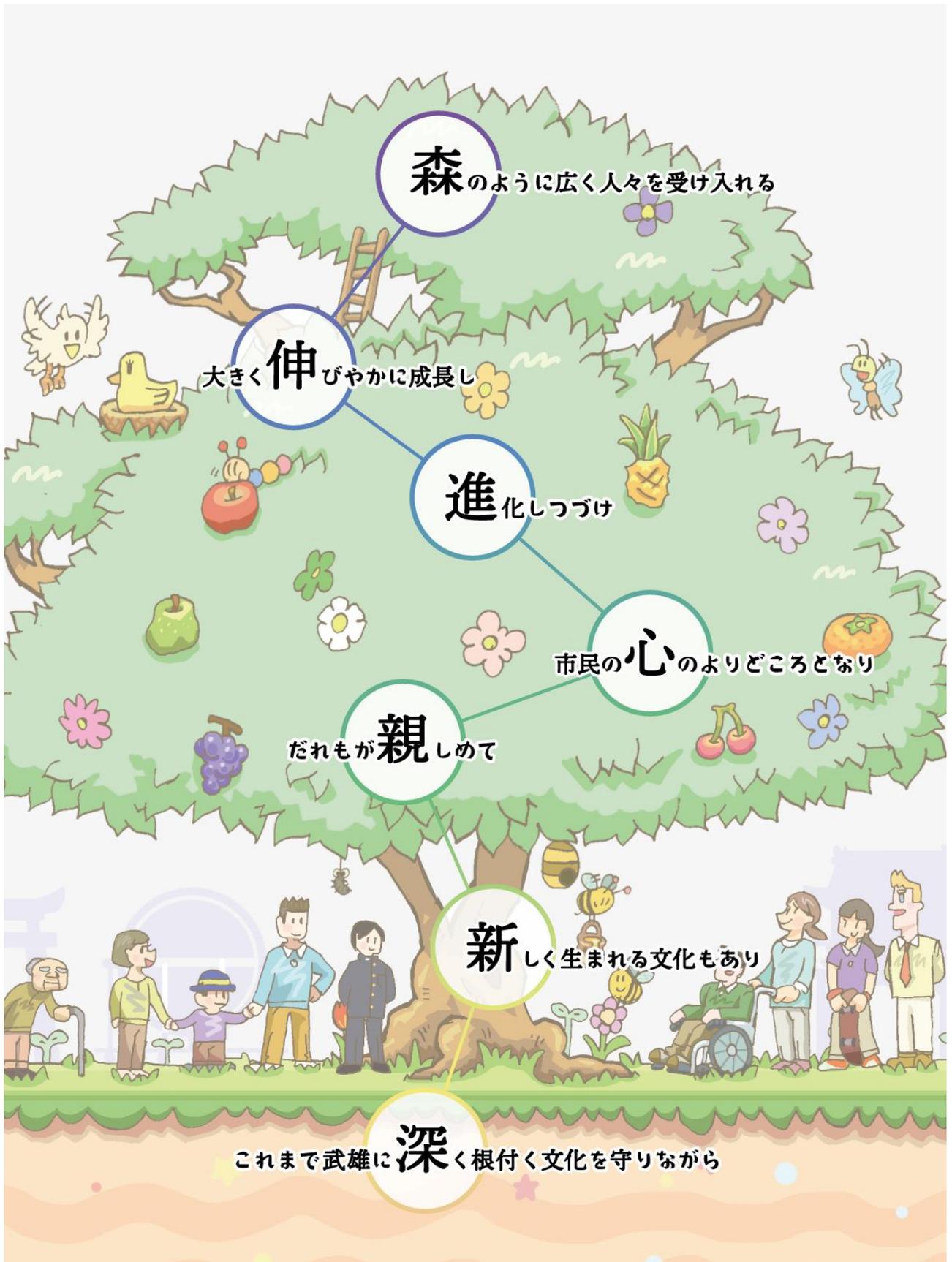
市民が自ら「文化の木」を育てる中で、これまでの文化同士の掛け合わせや、今ある文化と新しい要素との掛け合わせで、見たこともないような新たな花が咲き、実(新しい文化)がなるような変化が生じ、大きく育った木の下にたくさんの人々が集まって関わり合い、その花や実によって誘われて虫や鳥などの生き物たちも「文化の木」に集まるような未来を理想とします。「文化の木」を育てることで、市全域に活気とにぎわいが生まれる、そんな文化が生きるまちを目指します。

本構想のタイトルである
シン
「まちの進化論」

文化の木を育てる新たなまちづくりを具体的にイメージできるよう進化の意味だけでなく、「シン」化と表現

この「シン」には
7つの意味を込めています





文化の木を育てる過程と、文化の木が育ったあとの理想の未来像を表現しています。

2 新たなまちづくりの基本理念

「文化の木」が育ち、文化が生きる新たなまちづくりに取り組むために、以下を基本理念として定めます。

基本理念

もっと開かれた

もっと関われる

もっとつながれる

文化が生きるまち

もっと
開かれた

市民がより気軽に文化に触れ、楽しむことができる

もっと
関われる

市民が文化に積極的に、主体的に関われる

もっと
つながれる

文化により人と人がつながり、交流が生まれる

この3つの「もっと」をとおして、武雄らしい、魅力ある新たな文化の創造、文化によるまちのにぎわいの創出を目指していきます。

3 基本理念をまちづくりに活かすために

「文化の木」を育て、新たなまちづくりに取り組むために、基本理念をより具体化する3本の柱を設定します。3本の柱では、文化の木の「根」「幹」「枝葉」を育てる取り組みを行います。また、この柱を定める上で、SDGs(持続可能な開発目標)のうち、特に「経済」「教育」「まちづくり」「人づくり」「自然環境」「共生」「健康」「福祉」の視点と目標を取り入れていきます。

基本理念 もっと開かれた

柱1

成長する文化づくり

「文化の木の根を育てる」

SDGs上の位置づけ



本市には豊かな自然と長い歴史の中で培われた文化があり、市民共通の財産として次の世代につなげていく必要があります。

江戸時代、当時の先端技術を取り入れた鍋島茂義を代表するように、また、現在においても「それ、武雄が始めます。」のキャッチコピーが表すように、新しいものに挑戦していく進取の気性にあふれたまちでもあります。今ある文化を出発点として、様々な要素を取り込んで成長していく文化をつくることで、市民がより心豊かに暮らせるまちづくりに取り組みます。

「文化の木」の根を育てるために、市民誰もが等しく、文化芸術に触れられる開かれた環境づくりや、文化活動を身近なものと感じることができるような文化のバリアフリー化に取り組んでいきます。

基本理念 もっと関われる

柱2

文化に関わる人づくり

「文化の木の幹を育てる」

SDGs上の位置づけ



文化は、人々に楽しさや感動、精神的なやすらぎをもたらすと同時に、異なる背景の人同士が出会い、互いを知る機会となり、つながりを生み出します。

誰もが気軽に文化に触れ、文化活動の担い手として活躍してもらおうよう、市民の、特に若い世代の人たちが、より主体的に関われるような仕組みをつくっていきます。学校教育や地域において、多彩な優れた芸術、伝統文化や地域の歴史・文化財に触れる機会を設けるなど、文化教育の充実を図ることで文化に携わる次世代の育成を行っていきます。

また、自ら文化活動を行う人だけでなく、本市の新たな文化の継承・発展させていくための人材を育成する仕組みや、文化活動を行う人を支える人材を育成していくことで、文化に関わる人を増やし、「文化の木」の幹を大きく育てていきます。

基本理念 もっとつながれる

柱3

文化によるまちのにぎわいづくり

「文化の木の枝葉を育てる」

SDGs上の位置づけ



文化の振興は、市民の心豊かな暮らしのために必要なものであると同時に、地域の魅力を高める重要な要素であり、新しい活力を生み出す原動力となり、地域活性化の一翼を担っています。

「文化の木」の枝葉を広げていくため、文化を文化としてだけ捉えず、文化と経済、文化と福祉、文化と食、文化とスポーツとの関係など、文化を軸において様々な分野と連携することで、新たなまちの魅力づくりや、まちのにぎわいの創出、そして市民意識の醸成につながるなど、文化の可能性というのは無限大といえます。

2022年秋に開業する西九州新幹線により、これまでより多くの交流人口が見込まれます。市内外の人がつながる大きなチャンスであり、「西九州の文化のハブ都市」を目指すと同時に、文化をきっかけとして市内外の交流を促進させ、新しい文化やにぎわいを生み出していきます。

4 新たなまちづくりの目標

この構想策定により目指す、文化をきっかけとした新たなまちづくりの目標として、構想の期間である2031年(令和13年)までに、市民が捉える「文化」の範囲が広がることで新たな文化が生まれ、市民主体の文化活動が増え、文化をきっかけとした人的交流が増えるなど、文化を取り巻く環境が変化し、その結果として市民の文化への関心が高まることがあげられます。そのための目標として、以下2つの指標を掲げます。

- 文化活動を行っている市民の割合50%を目指す
(現状18歳以上で約40%、中高生で約30%)
- 市民の文化芸術事業への満足度80%を目指す

この目標を達成するために次章で掲げる、3本の柱と6つの目標、12の施策、それにとまなう12の事業案を設定しています。

5 目標、施策について（体系表）

3本の取り組みの柱をより具体的な取り組みへと展開するために、それぞれの柱に2つずつの目標を設定し、それぞれについての具体的な取り組み(施策)を定めます。

3つの柱	目 標	施 策
柱1 文化の木の根を育てる 成長する文化づくり	目標1 オープンな（開かれた） 文化づくり	施策1 文化がもっと身近になるきっかけづくり
		施策2 気軽な文化活動の場づくり
	目標2 フラットな（参加しやすい） 文化づくり	施策3 文化（活動）のバリアフリー化
		施策4 伝わる情報発信と共有
柱2 文化の木の幹を育てる 文化に関わる人づくり	目標3 主人公となる人づくり	施策5 主体的に文化に関われる環境づくり
		施策6 地域や学校での文化教育の推進
	目標4 サポーターとなる人づくり	施策7 文化を育てる人づくり
		施策8 文化を支える人づくり
柱3 文化の木の枝葉を育てる 文化によるまちの にぎわいづくり	目標5 地域資源を活かしたまちづくり	施策9 地域固有の文化の継承と活用
		施策10 文化を軸とし活かしたにぎわいづくり
	目標6 文化でまちと人をつなぐ 未来づくり	施策11 文化をきっかけにした交流の促進
		施策12 西九州における文化交流の拠点化

第4章 文化のまちづくりのための施策について

基本理念 もっと開かれた

柱1

成長する文化づくり「文化の木の根を育てる」

目標1

オープンな（開かれた）文化づくり

多様な文化活動の推進や、年齢、性別、国籍、障がいの有無にかかわらず市民誰もが気軽に等しく文化に触れられる機会づくり、文化活動を行う場づくりを行います。

施策1

文化がもっと身近になるきっかけづくり

文化をもっと身近に感じ親しめるよう「文化が薫るまち」をコンセプトとし、まちじゅうで文化を感じる雰囲気づくりを行います。市民の、特に文化に関心のない人たちにも興味を持ってもらい、自分事として関わられる機会をつくります。観る機会からより触れる機会をつくることで、市民一人ひとりが創造性を発揮し、新たな活動が生まれるまちを目指します。

事業案 ①まちじゅうアートプロジェクト



主な取り組み内容

市内の商店や宿泊施設、駅、公民館、福祉施設などまちじゅうの至る場所をギャラリーとして捉え、市民や市内外のプロの芸術家の作品、やきものなどの伝統工芸品、浮立をはじめとする伝統芸能、武雄市図書館・歴史資料館の資料(レプリカ等)などをまち全体で展示・披露することで、どこでもアートに触れられる環境を整えます。

事業目標 まちじゅうに文化・芸術・歴史に触れられる環境が整っている。

施策2

気軽な文化活動の場づくり

武雄市文化会館、北方文化ホール、武雄市図書館・歴史資料館などの文化施設を誰もが気軽に利用できるもっと開かれた場とし、市民のニーズを把握しながら充実させていきます。

また、活動の場を文化施設だけでなく、既存の公共施設や民間施設など身近な場所で文化を親しむことができる場の充実を図り、オンラインも活用しながら文化の振興を図っていきます。

事業案 ②文化活動の拠点づくり



主な取り組み内容

文化施設を、「明るく、自由な、外から活動が見える、気軽に立ち寄れる場」として充実させていきます。加えて、公園や高架下、河川敷などの屋外スペースなども含めた公共空間、民間の店舗や施設などを文化活動の場として、例えば発表会や音楽会、映画上映会などで使用し、これまで以上に活用していきます。

事業目標 公共施設等(屋内外問わず)の文化活動の使用(発表など)が増えている。

基本理念 もっと開かれた

柱1

成長する文化づくり「文化の木の根を育てる」

目標2

フラットな（参加しやすい）文化づくり

文化活動を行ううえで、安心して利用ができ、積極的に活動を行うことができる施設づくりを行うとともに、活動自体においても、開かれ、参加しやすい環境づくりが大切になってきます。

また、文化に関心はあるものの、情報を入手できずに参加できないという市民がないよう、多様な情報発信手段を活用して周知を図っていくとともに、市外へも広く情報を提供していきます。

施策3

文化（活動）のバリアフリー化

あらゆる市民が文化活動を身近なものとして捉えるには、活動の場としての環境を整えることが重要です。施設面、アクセス面等の公共施設のバリアフリー化を推進するとともに、年齢や性別、ライフスタイル、障がいの有無、住んでいる地域などに関係なく、市民が等しく文化活動ができるよう、ソフト面においても障壁のない環境を目指します。

事業案 ③障壁のない環境づくり



主な取り組み内容

ハード面でのバリアフリー化だけでなく、文化施設において手話や音声ガイドでの案内を行うなど、これまで以上に利用しやすくするほか、オンラインで文化活動（武雄市文化協会の自主文化事業や公民館講座など）を視聴できる環境を整え、ソフト面におけるバリアフリー化に取り組めます。

事業目標 誰もが等しく文化施設を利用でき、自由な文化活動が行われている。

施策4

伝わる情報発信と共有

市民が文化に興味・関心を持ち、触れるためには、情報の収集や発信は大きな役割を果たしており、正確な情報が確実に届くように発信しなければなりません。市民や団体の文化活動の広報支援や、市民ニーズにあった多様な情報媒体の活用に取り組みます。特に、情報にアクセスしづらい層へもデジタルとアナログ双方から情報提供を行う仕組みをつくり、共有を図っていきます。

事業案 ④市民主体の情報発信の推進



主な取り組み内容

チラシやポスターなどを活用したアナログな情報発信に加え、若者主体の情報発信を促すため、時代に即したSNSを活用したデジタルな情報発信を取り入れるなど、市民による主体的な情報発信を推進・支援していきます。

事業目標 市民が主体的かつ活発に文化情報を発信している。

目標3

主人公となる人づくり

誰もが文化に対し自分事化するためには、身近に文化があり、観るだけでなく、触れる環境をつくっていくことが重要です。特に、こどもの頃の体験は、その後の文化活動に大きな影響を与えます。

誰もが積極的に、主体的に継続して関わるができるような仕組みづくりを行うとともに、学校教育や地域においても環境づくりを充実させることで文化の担い手の育成を図ります。

施策5

主体的に文化に関われる環境づくり

市民、特に若者の文化活動の活性化を図ることは、地域の文化活動に新たな活力を与えます。文化に興味を持ち、直接関われるきっかけをつくり、担い手として育つ仕組みをつくっていくとともに、今ある活動についても、その活動が継続できるよう支援を図っていきます。

事業案 ⑤市民の文化活動参画推進



主な取り組み内容

市民のニーズを取り入れながら、特に本物の文化芸術に触れる機会を増やすことに加え、幅広いジャンルでのイベントを実施し、市民の文化活動への参画を促すなど、文化への関心が高まるきっかけをつくります。また若者(こども)たちが武雄の文化を自ら学び発信する機会を設けます。

事業目標 若者(こども)の文化鑑賞や文化活動機会が増えている。

施策6

地域や学校での文化教育の推進

次世代を担う子どもたちの豊かな創造性を育むため、地域や学校教育の場において多様な文化芸術に触れる機会を充実させていきます。

また、伝統芸能や地域の歴史についても体験、学習する機会を充実させることで担い手を育成するとともに、生涯にわたり文化が身近にある環境の実現を目指します。

事業案 ⑥文化の薫る学校づくり



主な取り組み内容

現在、市内小学校を対象に行っている文化芸術鑑賞(アウトリーチ事業)をこれまで以上に幅広いジャンルで実施するほか、武雄市文化協会の自主文化事業や武雄市図書館・歴史資料館の企画展の見学推進、学校での地域の伝統芸能の発表を増やすなど、教育現場から子どもたちの芸術性、創造性を高めます。

事業目標 芸術性、創造性のある若者(子ども)が育っている。

基本理念 もっと関われる

柱2

文化に関わる人づくり「文化の木の幹を育てる」

目標4

サポーターとなる人づくり

継続した文化活動が行われるには、それに携わる人々に対し、市民や団体、企業、行政などが主体的に関わり、支援していくことが重要です。

多様な文化活動を継続していくうえで、それを育てる人材を育成していくことや、市民誰もが文化活動に取り組めるよう、それを支えるボランティア、地域団体の育成などを進めます。

施策7

文化を育てる人づくり

文化活動団体の高齢化や参加者の固定化などの課題がある中、市民の文化活動を活性化させていくためには、今後、文化活動に関わる人材をつなぐ必要があります。地域や外から広く人材を発掘し、活動を行いたい人とつなぐことで継続的な活動のための仕組みづくりを行います。

事業案 ⑦文化の伝承者育成



主な取り組み内容

地域に根付く文化を受け継ぐ若い人材を育成する取り組みとして、プロの技術に触れる機会を設けたり、様々な特技を持つ市民の掘り起こしを行い、市民自らが講師となり他の市民に伝える機会を創出するなど、新たな文化の担い手を増やし、育てていきます。

事業目標 様々な文化が市民主体で伝えられ、担い手が育成されている。

施策8

文化を支える人づくり

誰もが文化活動に参加できるよう、文化にアプローチしづらい人が参加しやすい環境づくりや、活動場所までの移動やコミュニケーションでの支援などが必要な方へのサポート体制を図るための体制づくりを行うほか、将来にわたって文化活動が行いやすい環境を整備していきます。

事業案 ⑧文化のサポーター育成

主な取り組み内容

障がい者や高齢者、外国人など、誰もが等しく文化活動ができるような環境を整えるため、丁寧な情報提供や相談を受け付ける人材の設置、文化活動を補助するボランティアを募るなど、誰もが等しく文化活動ができるよう支援体制を強化します。

事業目標 誰もが等しく文化活動に参加できる環境が整っている。



基本理念 もっとつながれる

柱3

文化によるまちのにぎわいづくり

「文化の木の枝葉を育てる」

目標5

地域資源を活かしたまちづくり

先人たちよりこれまで受け継がれてきた歴史・伝統・自然などの固有の地域資源を観光や教育、福祉、まちづくりなどの様々な分野に活用することで、文化を感じられるまちづくりや新たなまちのにぎわいを創出します。

施策9

地域固有の文化の継承と活用

国の重要文化財である「武雄鍋島家洋学関係資料」をはじめとする貴重な文化財の保存・活用を図りながら、更なる発展を目指し、将来に引き継いでいきます。

また、地域の伝統芸能や、生活文化、民俗行事などの伝統文化、やきものをはじめとする伝統産業など、特色ある地域の財産を受け継ぎ、更に発展させ、市民に伝える取り組みを行います。

事業案 ⑨地域資源の磨き上げ



主な取り組み内容

文化財、やきものなど、今ある文化を再提案する取り組みとして、例えばデジタルアーカイブ化など、新たな技術を取り入れます。また、まだあまり認識されていない地域資源についても掘り起こしを行い、文化の側面から活用していきます。

※デジタルアーカイブとは、文化資源をデジタル方式で保存・蓄積し、ネットワーク技術を用いて検索を可能にし、継続的に活用すること。

事業目標 地域固有の文化が活かされ、地域の魅力が増している。

施策10 文化を軸とし活かしたにぎわいづくり

文化と他分野との連携を通じ、新しい価値を生み出します。文化を軸とし、食、経済、スポーツなど様々な分野との掛け合わせにより新たなまちのにぎわいを創出し、地域活性化を図ることで市の魅力を高めていきます。

事業案 ⑩他分野連携によるにぎわい創出



主な取り組み内容

市民の関心が特に高い「食」分野との連携案として、武雄固有の食（郷土料理やご当地グルメなど）を武雄のやきもので提供するなどのイベントの実施や、若者の関心が高い「スポーツ」と文化の連携を探るなど、文化と様々な分野との連携をとおして、新たなまちのにぎわいを創出します。

事業目標 地域の魅力が増し、まちのにぎわいが生まれている。

基本理念 もっとつながれる

柱3

文化によるまちのにぎわいづくり

「文化の木の枝葉を育てる」

目標6

文化でまちと人をつなぐ未来づくり

文化活動をきっかけとして、これまで交流がなかった人や団体をつなぎ、地域や世代間を超えた交流の活性化を図ります。

また、西九州新幹線の開業をチャンスと捉え、文化の面においても近隣市町や隣県とのつながりをより深めることで、魅力ある未来づくりに努めます。

施策11

文化をきっかけにした交流の促進

市内で文化活動を行っている市民や団体同士、またこれまで交流が少なかった若者と高齢者間の交流など、文化をきっかけとした交流を生み出します。

また、姉妹都市や友好都市等との文化交流の機会をつくることで、更なるにぎわいの創出や文化による多文化共生、多文化理解につなげていきます。

事業案 ⑪世界につながる文化交流の創出



主な取り組み内容

文化芸術団体同士の交流を更に活性化させ、市内での文化活動の拡大を図るだけでなく、国内の友好都市などへも文化交流の幅を広げ、更には海外の姉妹都市へも幅を広げることで世界につながる文化交流を創出します。

事業目標 文化をきっかけとした新たな交流が絶えず生まれ、継続されている。

施策12

西九州における文化交流の拠点化

本市は、2022年秋の西九州新幹線開業により、西九州エリアの交通結節点としての存在感が更に高まります。長崎や福岡からの移動もさらに便利になり、人やモノが交流する拠点「西九州のハブ都市」としての存在感が高まっています。文化の面においても、その優位性を活かして、文化的催しや大会、合宿などにより長崎、福岡からの人の流れをつくり、市内外との交流を図っていきます。

また、近隣市町などとの文化の連携にも力をいれることで、地域間や経済圏など広域で、あるものを活かした魅力づくりに取り組んでいきます。

事業案 ⑫文化のハブ都市化



主な取り組み内容

西九州新幹線開業をきっかけにつながる西九州の各市町と連携した演奏会・大会・合宿の誘致を行うほか、芸術家の短期滞在や移住を支援する取り組みなどで、文化のハブ都市として武雄の存在感を高めていきます。

事業目標 ハブ都市としての優位性を活かし、文化面での交流人口が増している。

第5章

施策を実現するための 拠点施設について

1 新たなまちづくりの拠点となる施設とは

本構想の策定により、文化をきっかけとした新たなまちづくりに取り組むためにも、基本理念「もっと開かれた もっと関われる もっとつながれる 文化が生きるまち」を実現できる拠点となる施設が必要です。

武雄市の文化の拠点である武雄市文化会館は、昭和50年の開館以来46年が経過し、経年劣化による老朽化、耐震不足、バリアフリーに関する設備の不備など、様々な機能上の問題点が顕在化しています。また時代とともに求められる機能や役割が変化する中で、現代のニーズを満たしている施設とは言い難いのが現状です。より市民に親しみやすい施設とするためにも、新たに生まれ変わることが求められます。

その施設として、これまで市民に長く愛され、文化を象徴とする場所として存在してきた文化施設の今ある機能や設備の問題点を改善し、活かしながら市民と一体となって整備計画を策定し、新たな文化施設として進化させていくことが必要です。

2 新たな文化の拠点から新たなまちづくりへ

「新しい文化が生まれ、人々が交流し、にぎわう」をコンセプトとし、新たな文化の拠点から、その周辺や各町の文化・公共施設などとのつながりや回遊性を高めていきます。行政と市民などが協働しながら取り組む、文化による新たなまちづくりが始まります。



第6章 取り組みの推進

1 取り組みの推進・協働体制

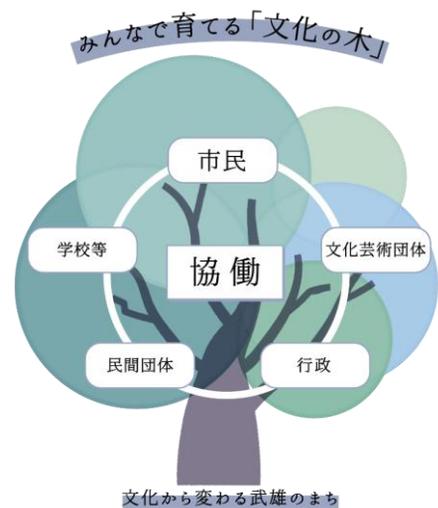
基本理念である「もっと開かれた、もっと関われる、もっとつながれる 文化が生きるまち」の実現に向け、文化の分野のみならず、観光や経済、福祉、教育、まちづくりなどの幅広い分野にわたって展開します。

その実施に際しては、文化に関する専門的知識・経験を持つ人材を活かすとともに、市としても、文化の持つ力を最大限に活かすため、総合的な文化行政を推進していくための体制構築に努めます。

推進にあたっては市民の意見を取り入れながら行政がその基盤を築き、その後の継続や発展については市民や文化芸術団体などが参加し、主な担い手となり、民間事業者、教育機関などがそれを支援していくことを期待しています。それぞれが連携・協働しながら、新しい文化の創出や文化によるまちのにぎわいづくりに一体となって取り組みます。

<期待される役割>

- 市民…文化に親しみ、文化活動を主体的に担う役割
- 文化芸術団体…団体間の活発な交流や活動の機会創出などで文化を振興する役割
- 行政…文化を取り巻く環境の基盤を築き、文化振興施策を総合的に推進する役割
- 民間団体…事業ノウハウ、組織力、企画力などで文化活動を積極的に支援する役割
- 学校等…子どもたちに文化芸術に触れる機会を提供し、感性を育てる役割



2 実施計画と評価・検証

本構想に基づき施策・事業を展開していくために、それぞれの目標に位置付けられる施策について実施計画を策定し、その中で毎年進行管理を行い、着実な推進を図っていきます。

また、市民文化の向上や地域課題の改善を図るうえで、どのような成果や効果をもたらしたのかなど、評価委員会等を有効に活用し、事業の成果を評価、検証していきます。

市民や団体を対象としたアンケートについても、定期的に行い、寄せられた意見・提案・要望などを施策へ反映させていきます。

1 武雄市文化のまちづくりデザイン会議委員名簿

氏 名	所 属 団 体	備 考
山口 夕妃子	国立大学法人 佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授	会 長
七田 忠昭	佐賀県立 佐賀城本丸歴史館 館長	副会長
黒澤 伸	公益財団法人 金沢芸術創造財団 芸術・交流アドバイザー (元金沢21世紀美術館 副館長)	顧 問
井上 俊正	武雄市文化連盟 事務局長	
田中 友子	武雄市文化協会 副会長	
松尾 陽輔	武雄市議会 福祉文教常任委員会 委員長	
川副 義敦	武雄市図書館・歴史資料館 歴史資料専門官	
井上 祐次	武雄市観光協会 常務理事	
中野 博之	武雄商工会議所 専務理事	
光武 英樹	武雄市商工会 経営支援課長代理	
綿島 康浩	綿島康浩陶工房	
永松 直子	T E Nつなぎ 代表	
鳥谷 憲樹	トラットリヤ ミマサカ オーナー	
稲葉 充秋	一般社団法人 全日本フリースタイルBMX連盟 理事	
山口 祐香	国立大学法人 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 学術研究員	
諸岡 智恵	武雄市 こども教育部 理事	

2 武雄市文化のまちづくりデザイン会議開催経過

会議回数	会議日程	開催場所	会議内容
第1回	令和3年 5月25日（火）	武雄市文化会館	○「文化」とは何か？
第2回	令和3年 7月 6日（火）	武雄市役所	○文化によるまちのにぎわいの創出について
第3回	令和3年 9月24日（金）	武雄市文化会館	○第2回までの振り返りとディスカッション
第4回	令和3年10月25日（月）	武雄市文化会館	○構想骨子案・新しい文化エリアの設定とディスカッション
第5回	令和3年11月22日（月）	如蘭塾	○構想骨子修正案の検討とディスカッション
第6回	令和3年12月24日（金）	武雄市文化会館	○構想本文とタイトル案について
第7回	令和4年 1月12日（水）	武雄市文化会館	○構想タイトルと本文修正案・概要版について
答 申	令和4年 1月21日（金）	武雄市文化会館	

武雄市文化のまちづくり構想

令和4年3月

武雄市 こども教育部 文化課 新文化会館整備準備室

〒843-8639

佐賀県武雄市武雄町大字昭和12番地10

TEL0954-23-9181

E-mail : bunka@city.takeo.lg.jp